

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101223		
法人名	財団法人老年病研究所		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	群馬県前橋市大友町3-22-9		
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安全に安心して生活出来る環境を整え、その人らしさを見出し、季節を感じてもらい、美味しい物を食べて楽しく生活出来るような場所の提供(附属病院、老健施設とのイベント、独自のイベント、屋上庭園の活用等)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101223		
法人名	財団法人老年病研究所		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	群馬県前橋市大友町3-22-9		
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安全に安心して生活出来る環境を整え、その人らしさを見出し、季節を感じてもらい、美味しい物を食べて楽しく生活出来るような場所の提供(附属病院、老健施設とのイベント、独自のイベント、屋上庭園の活用等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症疾患等の専門分野の研究施設も兼ねる、母体病院と併設の介護老人保健施設等と連携することにより、認知症、口腔ケア、家族支援等生涯安心のケアの提供が行われている。法人内での各種イベント(音楽、ボランティア等)も定期的に開催されているので、入居者に楽しみと憩の提供がなされている。また、法人内外の多彩な研修内容が整備され、職員は常時参加する機会に恵まれ、日常の介護の提供に活かされている。排泄介助には、2週間のアセスメントを実践して、一人ひとりに合った介護の提供と、単に排泄障害からの視点ばかりではなく、医療的視点も加わった治療とケアの連携が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101223		
法人名	財団法人老年病研究所		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	群馬県前橋市大友町3-22-9		
自己評価作成日	平成23年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安全に安心して生活出来る環境を整え、その人らしさを見出し、季節を感じてもらい、美味しい物を食べて楽しく生活出来るような場所の提供(附属病院、老健施設とのイベント、独自のイベント、屋上庭園の活用等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議で職員に周知し理念をホーム内に掲示や個人の名札の中にいれていることで意識を持ち実践につなげている	職員は理念をネームプレート内に保持するとともに、各ユニットの見やすい場所に掲示して、理念に照らした介護の提供に努力している。また理念に基づく実施目標を掲げ、実践に取り組んでいる。年2回のスタッフ全体会議にも、理念の振り返りの議題も設けて協議・検討を重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に周囲の方へあいさつしたり、推進会議をイベントと抱き合わせ運動会や消防訓練への参加していただきホーム内を見てもらい又近所へ買い物に利用者とは出かけ話をしてもらう	利用者と一緒に散歩や買い物等の外出時には、入居者が外部との交流ができる機会なので、ホームが孤立することなく、地域社会に受け入れられるよう支援を行っている。そのときには近隣の方からのお花の提供や、買い物時の店内での会話などが図れ、幅の広い地域交流実現に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの勉強会に参加や、いつでも見学できる体制		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事やホーム内での様子を報告しています	会議は定期的に開催しているが、議題は報告が中心になっている。今後はサービス向上に具体的に結びつく会議運営を検討し、更に充実したものにするため、特に各ユニットごとに選ばれた家族の推進委員を中心にした取り組みも検討されている。	会議ではホーム側からの報告とともに、参加者からの質問・意見・要望等を積極的に受け取る双方向的会議実現に向けて、現在検討中の運営内容の取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接市役所へ出向き担当者に面会してアドバイスを受けている	電話や直接出向いて、情報の交換ができる関係作りをしている。主に研修案内・制度内容等の説明や具体的ケアの方法等の助言があり、交流が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束禁止のことは理解しているが建物構造上 1階に居室があり施錠しています	法人全体の研修をはじめ、ホーム内での研修会等も設けて、言葉による拘束も含めての入居者の人権を守るケアを基本に、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。管理者は、ホームが2～4階という建物の構造上、安全面を重視して、エレベーターの開閉は職員のみで行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同業者の情報や市からのパンフレットなど話題を提供して注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族に説明し納得後署名捺印		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの申し出に対しては速やかにフロアリーダーを通して全体に流し対応している	家族の意見等は管理者に報告され、内容により各フロアリーダーとの会議を開催し、家族に説明されている。これらの内容は、毎週のカンファレンスで職員に共通認識されている。各ユニットには、各家族用のレターケースがあり、職員から家族への連絡ミスがないよう全職員が共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議を行いスタッフの意見や提案を協議している	定期的な会議以外にも、毎日の朝夕のミーティングで課題や今後の取り組み等が確認され、特に夕方は全職員が集まる申し送りがある。年1回の各職員への人事調査(アンケート)と個別面談、年2回の管理者及び法人責任者による人事評価が実施されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や事務長から話をしてもらう機会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な院内研修や院外研修へ参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	24時間2週間シートをつけて生活パターンの把握に努め話の傾聴につとめる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族からの要望を聞きプランに入れる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ全員で関わるようにサービス内容の検討会をカンファレンスで行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	先輩としての知識や古い伝統などを教えていただく場面を取り入れたりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時にはホームでの生活を話し家での様子を聞く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友だちが面会にきてもらう場面や、顔なじみのお店の店員さんが面会に来る場面があるのでいつでもきていただけるよう支援	入居者本人が培ってきた人間関係や社会の関係の把握に努めている。独居者の入居が増え、馴染みの関係が把握しにくいケースもあるが、出来る限り馴染みの床屋の利用などで、関係継続ができる支援を行っている。祝祭日に日の丸を掲げることで、過去を呼び覚ましてもらう支援も行っている。	入居者一人ひとりが地域でどのように生きてきたかなど、本人が活躍した地域との関係に注目した、多面的な支援に期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はレクや散歩等皆で行える事を取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院したり、当財団法人老年病研究所内の施設を利用される方が多いのであったときには相談や声かけを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや言葉かけから気持ちを引き出す事を日々実践している	入居者のリラックスした状態時のコミュニケーションから、会話や表情の変化等を見逃すことなく観察し、状況の共有化を図っている。表情やしぐさ等の気になる変化があったときには、職員間でケアの問題点等を検証し、原因除去に努めるなど、安心した日々の暮らしの提供を行っている。	入居者の変化等の原因究明の把握に加えて、それ以前の入居者の言葉にできない思いや意向等を先行して職員が共有できる取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から情報を得、家族面会時にさらに様子を伝え情報を得ている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時に家族からの要望を聞きプランに入れる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制で管理者、ケアマネの意見を聞き立案されたプランをカンファレンスで協議検討	入居時に家族の希望を伺うシステムがあり、入居後の2週間はアセスメントを行い、担当職員が介護計画の原案を作成し、管理者・ケアマネージャー・主治医の意見が加わり、作成している。計画実行中も評価時に家族の意見等を把握し、アセスメントが継続されて、モニタリングが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、送り表を使用		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常にスタッフ間で利用者に対する課題を共有して新たな取り組みにチャレンジしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の友だちが面会やスーパーなど多様な方との交友		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	附属病院を必要時に利用する事を入居時に承諾を得ている	入居時に家族へ、母体の医療機関の説明と診療の同意を得ている。家族の希望があれば、かかりつけ医の継続も可能である。往診は2週間に1回行われている。眼科と皮膚科受診を継続した医療機関へ受診をしている入居者には、職員が介助を行い、診療結果を文書で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師なので全ての情報が報告され記録している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師は附属病院の看護部に所属しているので常日頃から連携をとっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に方向性を確認している	家族の希望があればホームでの看取り対応は可能であるが、母体法人の医療連携整備(24時間対応)があることから、入院対応となっている。入居者の状況に応じて、主治医からの方向性の助言を受けて家族と協議の上、支援内容を決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会への参加		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、緊急連絡網の練習	年2回防災訓練を実施し、1回は消防署の協力を得て、入居者と運営推進会議の参加者と一緒に、避難訓練・初期消火訓練等を行っている。備蓄については保存食を備蓄している。スプリンクラーの想定訓練も行い、対策を講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を大切に言葉掛けを職員同士が共有	排泄の介助では、声かけ等に配慮して、職員で共有した入居者が安心できる言葉かけをしている。名前の呼び方については、原則「さん」であるが、事前に家族情報を聞き取り、入居者にとって心地よい呼び方で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	尋ね方や、声かけの工夫		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者と同じ空間と一緒に居る時間を多くしその日にあったかわり方に工夫		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の整理整頓ををし、本人が分かり易いようにラベルなどで表示し、洗濯してある物を身につけるように支援		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事をし好みや残した時の様子を確認	入居者一人ひとりの嫌いなもの把握し、食べてもらう食事づくりに取り組んでいる。各ユニットに食事係を設けて内容を検討し、献立に反映している。職員が検食をかねて、一緒に食事をしている。各入居者の体形に合った椅子を提供して、食事のしやすい体制を整えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は記録に残し少ない時には補助剤やおやつで1日量を確認し個人の嗜好も考慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が確認し記録に残している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時2週間24時間パターンを調べ取り組んでいる	排泄状況を入居後2週間をかけて把握し、3ヶ月間の評価が行われ、個々にあった支援が検討されている。コントロールが難しい場合などは、主治医からの助言や泌尿器科治療での改善が行われている。夜間は安眠を考え、各種パットの使用により、安眠を妨げない支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、内服、等で管理		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴のほか汚染時には適時入浴、シャワーを利用	週3回の入浴日を原則に、入浴支援が行われている。声かけの「お風呂に入りましょう」は、利用者の拒否があるため禁句とし、「着替えましょう」等の声かけで誘導支援を図っている。ボランティアの受け入れがあり、週3回の見守り支援の協力を得ている。	入居者一人ひとりの希望や入浴への導入方法を再確認して、入浴を楽しむことができる、ケアの実践を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床は本人の意思を尊重		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤提供書を各フロアに用意しスタッフがいつでも見られるようにしてある、配薬も一人一人確認		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中はレクや散歩等皆で行える事を取り入れていれ、個人の趣味や要望に答えている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	看護学生やボランティアが着ている時には戸外に天気と相談して出かけている	近隣の公園または屋上の庭園への散歩を、日課とする外出支援を行っている。年間計画には外食・買い物ツアー・花見や法人内イベント等があり、その都度介護の提供が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時附属病院の外来公衆電話を利用		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア入口に下駄箱を置き、お花など季節感を感じてもらい、ホールには作品や、行事の写真を貼りいつでも思い出してもらえる様に工夫したり、玄関には手作りカレンダーの掲示	2階、3階、4階にある各ユニットは、ガラスのブロック壁が使用されていて採光が十分取り入れられ、明るいスペースが確保されている。窓から眺める景色も空間作りとなっている。ゆっくりと腰掛けられるソファ等のカバーの配色もよく、安心した共用空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール自席を固定しているので利用者同士の関係を浴する配置の工夫、テレビ前にはソファを置く事でゆったりしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にその人らしい部屋作りに家族に協力を得たり、手作りの掲示物を置いたりしている	一人ひとりの入居者の安心感を把握して、居室を職員同士で検討したり、家族の意見も伺い支援をしている。職員の清掃作業により清潔感のある居室と、窓からの景観も楽しむことができる居心地のいい居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア毎に個人情報があり常に職員は更新された情報の共有を図り、自席には名前を付けたり家族了解のもと居室入口にも名前を掲示		